

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改

## 2. 学校ごとの指標

○ 入学時の学力を維持・向上させ、全学年が県平均(偏差値50)以上を目指す。

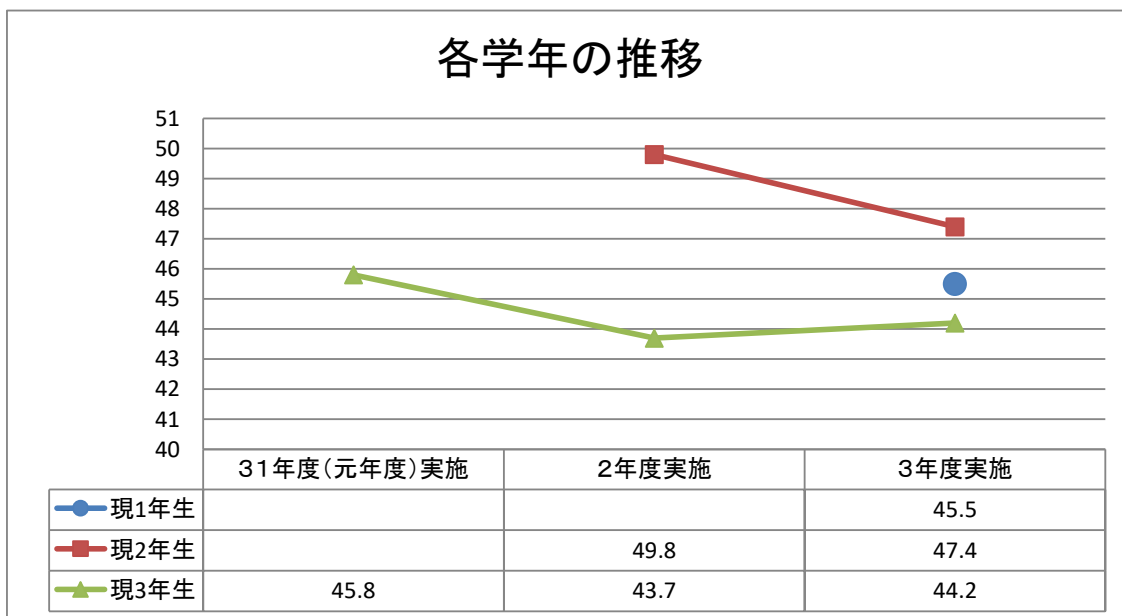
## 3. 指標にむけての取組

- ・ 基礎基本の定着を図るため、昨年度以上に既習内容の復習や小テスト(確認テスト)などTT授業や習熟度別授業等において、きめ細やかな指導を継続して行う。
- ・ 家庭学習の定着のため、1学期に自学ノートの交流を各学年で取り組んだ。2学期は1学期の成果と課題をふまえ、点数アップにつながる自学ノートの作成・交流を行う。
- ・ 2年英語の学力向上、基礎的内容の補充のため、2学期は朝読書として使っていた時間帯を期間を決めて朝学習に取り組む。
- ・ 学校の重点目標に「基礎基本の確実な定着を図る授業づくり」「学習習慣づくりと家庭学習の充実」また経営の重点に「思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり」を位置づけ、それぞれの学年における入試問題の傾向(思考力を問う問題等)に対応できるよう授業改善に取り組む。
- ・ 数学科3名(教諭2、指改1)、英語科に課題対応非常勤講師を1名配置していただいたことによる指導形態の工夫により、基礎学力の向上を図る。数学科はTT授業+個別指導、習熟度別授業(3年)を、英語科はTT授業+個別指導、習熟度別授業(2年2学期からの予定)を行う。

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	29年度	30年度	31年度 (元年度)	2年度	3年度
本校(A)	47.8	48.7	47.5	46.4	45.7
嘉麻市(B)	47.9	49.3	48.8	48.6	47.1
(A) - (B)	-0.1	-0.6	-1.3	-2.2	-1.4
標準偏差値との差 (A) - (50)	-2.2	-1.3	-2.5	-3.6	-4.3



## 5. 各学校における分析

### <全体>

- ・ 現2年生及び現3年生の1年次から2年次の偏差値が同じように約2ポイント減少している。

### <現3年生>

- ・ 現3年生においては、偏差値が43.7から44.2に+0.5と僅かながら向上しているが、依然として厳しい状況である。教科別で見ると、国語は+1.2、社会は+2.3、英語は+0.2と向上したのに対し、数学は-0.3、理科は-1.4と減少している。現3年生では、総合的な学習の時間を活用した学力補充の時間を設定しており、そのことが成果に結びついた大きな要因と考える。

### <現2年生>

- ・ 現2年生においては、偏差値が49.8から47.4に減少している。その中で、教科別で見ると、数学の偏差値が49.4から50.9に+1.5ポイント向上している。これは、きめ細やかな授業を基盤に既習内容の復習や小テスト(確認テスト)など加配を使って基礎基本の定着を図ることができた成果と考える。ただし、それ以外の教科(国-6.1、社-0.2、理-3.4)は、偏差値が減少している。英語においても偏差値47.7と低位な状態にある。

### <現1年生>

- ・ 現1年生においては、入学時の偏差値が45.5と、ここ3年間で一番低い。教科別で見ると、国語は47.1、数学は45.4、社会は45.0、理科は45.9という結果でどの教科も同等の学力の低さが目立つ。

## 6. 各学校における今後の取組

まず、学習規律の確立に努める。そのために、生徒指導委員会と連携をして、教師全体で統一した週目標を掲げ、取組の徹底を図る。

次に、分かる授業の徹底を行うために、教科部会の定期的開催を実施する。具体的には、中間考査、期末考査の後に教科部会を実施し、結果の振り返りを基にした授業改善を図る。特に、英数の加配を生かしたきめ細やかな指導を重点的に行い、学力の向上を図る。また、研究推進委員会とも連携し、学校としての統一した学習指導の重点を整理し、すべての教科での徹底を図る。

また、新規取組として、ノースマホ・ゲームデーの設定、朝学習の組織的な導入、学期ごとのまとめ確認テストの実施を行う。取組の前提として、生徒が自ら学びに向かう力を育成することを教師全体で確認し、生徒に多面的・多角的な視点から啓発活動を行う。

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「GoTo授業づくりチェック20」「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆嘉麻市学力向上推進員会に基づく学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。